

# 2009年 機関紙コンクール

入賞作品  
発表

2009年通信労組機関紙コンクールの審査員評会が8月7日、通信労組本部で開かれ受賞作品が決まりました。今回は、14支部8分会、その他1団体の合計23点(昨年27点)の応募がありました。表彰は通信労組第34回定期全国大会中に行います。

## 2009年 機関紙コンクール「受賞作品一覧」

### ▼ 優秀賞

- 「通信労組 おおさか」 大阪支部
- 「通信労組 みやぎ」 宮城支部
- 「とんび」 広島支部
- 「千成&多摩NEWS」 東京支部
- 「通信労組 かながわ」 神奈川県支部



### ▼ 激励賞

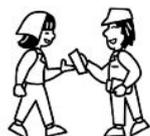
- 「通信労組 つなしま」 神奈川県支部横浜北分会 A4 版月間
- 「兵庫分会ニュース」 兵庫支部兵庫分会 B4 版月間
- 「通信労組 東京」 東京支部 B4 版月間

### ▼ これからも頑張賞

- 「通信労組 あいち」 愛知支部 B4 版月間

### ▼ 特別賞

- 「たんぼぼ」 B4 版月間  
NTTリストラ反対・裁判勝利群馬の会



### ■ 応募機関紙作品



- 「通信労組 京都」 京都支部
- 「金町おはようございます」 東京支部東京分会
- 「通信労組 ひらの」 大阪支部平野分会
- 「通信労組 ふくおか」 福岡支部
- 「通信労組 長岡京分会」 京都支部長岡京分会
- 「通信労組 さいたま」 埼玉支部
- 「通信労組 多摩分会」 東京支部多摩分会
- 「通信労組 ちば」 千葉支部
- 「通信労組 すみよし」 大阪支部住吉分会
- 「通信労組 おおいた」 大分支部
- 「通信労組 こだま」 静岡支部
- 「通信労組 おかやま」 岡山支部
- 「通信労組 岩手」 岩手支部



### ▼ 審査基準

- ① 企画立案 激動する情勢にふさわしい切り口で、企画が練られているか
- ② 編集技術 読みやすく、きれいに編集がされているか
- ③ 読者参加 取材、投稿、執筆などにより読者が参加しているか
- ④ 視覚化 見出し、カット、グラフなどが効果的に扱われているか
- ⑤ 配布体制 配布による伝え合い、読み合い、分かり合いの運営か



# 元気な機関紙から

## 何を学ぶべきか



日本機関紙協会  
常任理事

桜井 輝治 さん

1、この1年、新自由主義の破綻、規制緩和の「罪」が社会問題となり、大企業の「派遣切り」がその可視化とともに、社会的批判を浴びました。派遣村の広がりとともに、全国で非正規労働者の闘いが広がっています。通信労組でも非正規の闘いが始まったところは、機関紙も元気になっていま

す。  
通信労組の支部・分会機関紙は、それぞれに個性があり、いい持ち味を持っています。10年前だと、新聞の形の個性はありましたが、支部機関紙の半分程度が、同じ内容と見出しという画一的という

弱点がありました。それがだ

いぶ慣れてきて、支部独自の要求と交渉を一面で追求する、本来の個性化を持つ機関紙が多数になってきたことは、機関紙の役割が進展していることだと思います。機関紙は企画という個性が発揮できて本物になります。

2、そうは言っても、優秀賞ク

ラスはどうしても常連紙で、「あんなのできないよ」と考えがちです。そこで今回は優秀紙から何を学ぶべきかについて述べたいと思います。

1つは、先ほどの「独自企画」です。中央機関紙との重

複を避けるためにも、支部機関紙は支部の職場の実状を反映した、要求と運動が基本となります。支部機関紙の役割はそこにあります。

2つ目は、「生き生きした見出し」です。スローガンの見出しは職場の実状に対して付けられたものではありませんから、見出しとしては失格です。今働いている仲間たちに、どんな言葉ならば届くのかを考え抜かれた見出しが必要なのです。今年「みやぎ」の見出しが光っていました。

3つ目は、見せるレイアウトです。「おおさか」の紙面は写真を大きく扱い紙面を魅力的にしています。受け取って読もうと思わせるレイアウトが求められています。大切だからと文章だけで紙面を埋めては

いけません。短く的確にまとめられた文章の方が理解しやすいのです。

4つ目は「多彩な企画」です。「とんび」のように、組合課題だけでなく、紙面の片隅に映画や山登り、文化の話題、町の話題など多彩な企画が必要です。その点「コラム」は、記事ではふれられない問題や話題をコラムとして提供することで、読ませることが可能な文章形態です。

この4つのポイントの1つでも紙面に反映させることができれば、機関紙は大きな魅力を持ち力を発揮できます。

3、ふれておきたいのは「機関紙の定期制」です。定期発行が1度崩れると回復するのが大変です。定期発行は組合活動のリズムを作り、定期に配布することで職場の信頼を得られます。非組合員の人が

「今月は配布はないのか」と感じることは、通信労組が職場に存在しないと思われることに等しい、そのくらいの比重を持つべきことなのです。大変なことですが、がんばりが求められている時代です。



優秀賞

宮城支部

「見出しで分かりやすく、元気のぞる見出し」と、こだわる紙面は、身近な職場の声を集め、要求や問題を整理してタイムリーに知らせています。「記事はホットなうたに」が良いですね。B4版の月間発行。



優秀賞

大阪支部

紙面の企画力やレイアウト、内容バランス、大きなテーマから職場の問題まで、実に広い範囲を網羅できています。それも隔週の発行・配布体制の充実にあります。B4版の隔週発行。

# 定期発行へのこだわり

## 職場で「待たれる機関紙」に



中央執行委員長  
山田 忍 さん

今大会での機関紙コンクールへの応募は14支部、8分会、その他工団体でした。

通信労組はその結成以来、「機関誌中心の活動」を組織活動の基本に据えてきました。

団塊の世代の退職時代とNTTリストラの影響で、各支部組合員の減少と活動家不足は否めませんが、「通信労組あるところに機関紙あり」の真骨頂を改めて構築する必要があります。

ります。

昨年末の「年越し派遣村」の取り組み以降、労働組合は働くものの防波堤として期待されてきています。NTTグループで働く非正規雇用労働者や、50歳選択を迎えた労働者が「通信労組のビラを見て」相談にくる事例は決して少なくありませんし、あらゆるNTT「合理化」に対する通信労

組の主張・告発は、職場労働者に「待たれる機関紙」になっています。つまり、職場労働者にとって、通信労組機関紙の定期発行は通信労組の存在意義を決定づけます。そういう意味で、隔週発行の大阪支部をはじめ今回優秀賞に選ばれた機関紙はもちろん、応募された各機関紙発行に携わる皆さんのご奮闘をたたえるところにも、紙面作りはともかく、機関紙発行が途絶えている組織や定期発行を実現できていない組織の、「定期発行へ」こだわり続けるチャレンジを大いに期待します。

# 身近に感じられ 大胆な紙面づくりへ

中央執行委員教宣担当  
阿部 幸子 さん

毎月の機関紙発行は苦労様です。どの支部もたいへんな思いで作成しているのがアンケートなどでわかりました。いくつかの心打たれた紙面の特徴

は、「①そこに働く労働者の気持ちや、50歳選択を迎えた労働者が「通信労組のビラを見て」相談にくる事例は決して少なくありませんし、あらゆるNTT「合理化」に対する通信労

学べる、ホットするコーナーがある。」などです。これらの要素が入っていると身近に感じられ、信頼され期待される機関紙になっていくのだろうなと思います。そこには技術力が加わり、迫力が出ています。ばらしい支部もありました。全体にはおとなしくまとまった紙面になっているので写真も

大いに取り入れて、スポーツ紙とまでは言わないが大胆な気持ちで工夫しても良いのではと思います。編集長が一人で作っている支部もあるので、複数でも話し合っって職場でおきている問題や社会情勢にも触れながら討議することが運動にもつながって行くと思います。



優秀賞

### 神奈川県支部

「労働者の要望に・要求を取り上げ。団体交渉模様を伝える」、支部の政策が大きな力となり、職場の問題の本筋・原因を解明する紙面立ては光っています。企画立案の良さ。B4版の月間発行。



優秀賞

### 広島支部

「職場労働者の声を取り上げ」ながら、ギスギスした紙面にはなりません。手渡す労働者にやさしく愛されるよう、丁寧な2色刷りの機関紙に仕上がっています。B4版の月間発行。

## 各地の機関紙に学ぶ 実践紙面を手にとつて

中央執行委員教育担当 高野 長蔵

機関紙の編集で心がけていることなどを各支部・分会にアンケートしました。特徴的な内容では、「出来るだけ新鮮な話題を載せる」「職場の声を聞き、職場の気分、感情にマッチした内容にする」「地元のことや、NTT以外の労働者の情勢をなるべく載せる」「得をしたなどと思われる記事」「職場の問題と組合の考え方を記事にしている」「団体交渉を伝える」「執行委員会で今回どんな記事にするか毎回論議している」など、企画立案の編集体制が整い、読者参加に心がけている点です。

「組合員の声が載り、暖かい紙面づくりを考えている」「取り組みをしたことや投稿を載せている」「職場の声を多く取り上げようと配慮している」とは、配布による伝え合いで、取材ができ、読者交流があることが、とくに、分会機関紙紙面からも伺えました。

「見出しで分かりやすく、元気の見える見出しに、文章が長くなりがちなので短く」と編集技術や紙面の視

覚化にも配慮している点や、「とにかく月1回は発行する」と、こだわりを持つての機関紙作りは、大切ではないでしょうか。機関紙発行が途絶えている支部や分会は是非、月1回の発行へ「こだわりを持つていただきたい」と願っています。

中央の機関紙も紙面構成をこの10月号から変更します。「地域会社の情報を」「派遣・契約社員のコナ」があれば」と要望も寄せられています。激動する情勢にふさわしい、取材や紙面づくりに工夫をこらしながら、編集材料を集める体制も整え、支部・分会の機関紙発行への支援が出来ればと思っています。

機関紙発行には、「三週隔発行」の大阪支部。「月4、200枚の配布体制」の愛知支部。「二色印刷の機関紙」広島支部。「記事はホットなうちに。拡大を意識して。定期発行をくずさない。見出しは簡潔に共感してもらえぬ文章で」宮城支部、各地の「こだわりが詰まっています。大いに参考にしていきたいです」。

### 優秀賞

#### 東京支部「千成&多摩NEWS」

3地域の分会機関紙なのですが、紙面は暖かい職場の交流となっていて、組合員が気兼ねなくそれぞれの思いを書いています。気軽に参加できる抛り所になっているようです。A4版の月間発行。



### 激励賞

#### 神奈川県支部 横浜北分会



### 激励賞

#### 兵庫支部 兵庫分会



### 激励賞

#### 東京支部



### これから頑張賞

#### 愛知支部



### 特別賞

#### 群馬の会

